

道志村立道志中学校

テーマ「私のふるさと道志・15歳の村への提言」



1 目的・経緯

始まりは10年以上前に遡る、中学生の村の議会見学からスタートしました。実際の議会を見ることだけでも中学生には学習になりますが、当時の議員さん達の方から「中学生の意見も聞きたい」と言う声が上がりました。そこで、次年度は議員さん達が来校し中学生と車座になり、これからの村の行く末を考える座談会が催されました。その後、これらの活動が総合的な学習の一環として根付き、中学生が村の現状を考えながら、今後の村にはどういったことが必要なのか、自分達には何ができるのかを探求活動から提言していく会へと変化してきました。現在では、議員さんたちはもちろんのこと、村長さん、教育長さん、教育委員さん、村役場の全ての課長さん達をお招きして、中学3年生が探求活動の結果として、一人一人村への提言をする会「15歳の村への提言」をおこなうようになりました。

2 内容

中学校3年間の一貫した総合学習のテーマとして「ふるさと学習」が設定されています。1年時にはふるさとについて知り、2年時にはふるさとの現状や課題について考え、3年時には「15歳の提言」という最後の発表の場に向けて自分の具体的なテーマを設定し、調査・研究の成果を元にした自分の考えを、村の議会や行政に向けて一人一人発表していきます。その発表の後、それぞれの提言者に対して議員さん達などが質問したり、アドバイスしたりしてより良い提言につなげていきます。そして、提言を持ち帰った村当局からはその後、提言の実現化に向け検討していただくという流れになっています。

3 成果と課題

成果としてあげられるのは、中学生一人一人が真剣にふるさとのことを考え、ただ大人に何かしてもらう要求をするのではなく、中学生である自分達に何ができるのかを自己に問うようになることです。また、村側としても、中学生の柔軟な発想による提言を受けることで、実際の行政の方針に生かしたり、中学生と協力して何かを成し遂げることができることです。例えば、昨年の提言の中でふるさと納税の御礼状の中に、中学生が地元のお勧めスポットを紹介したり、教育への支援のお礼を書くという提言が実現しました。実際にこの4月からその御礼状は使われていますが大変評判が良く、村役場への問い合わせもあったほどです。今年も体験型ふるさと納税の提言や、自転車の村を作ろう、川をもっとアピール、外国人を村に呼ぶための英語パンフレット、郷土料理を生かした村とご縁作りなど様々な提言がおこなわれました。課題としては、年々提言の質は上がってきてはいますが、他学年も含めた多くの教員で関わる大プロジェクトとなっており、時間の持ち方、フィールドワークの仕方等の改善を考えていかなければなりません。

